

平成24年度宮城県献血推進協議会議事録

平成24年11月19日午後1時30分から、KKR ホテル2階青葉において、平成24年度宮城県献血推進協議会を開催した。

- | | |
|-----------------------------|--|
| 1 開会
門脇総括 | 薬務課門脇総括が協議会の開会を告げ、情報公開条例第19条に基づき、協議会は公開されることを報告した。また、協議会条例4条の規定により、委員20名のうち13名が出席で、定足数である半数を満たし、会議が成立することを報告した。
続いて、薬務課門脇総括が出席委員及び事務局を紹介した。 |
| 2 会長あいさつ
張替会長 | 東北大学の張替でございます。今日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。お手元の議事次第に従いまして、討論を進めて参りたいと思っておりますが、まずは委員の先生方に献血の現状を御理解いただき、この事業について有意義な御提案をいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。
(これ以降の議事について、条例第4条の規定に基づき張替会長が進行) |
| 3-(1). 議事録署名人
選出
張替会長 | 議事に入ります前に、本日の会議の議事録署名人の選出ですが、伊藤委員と笠原委員にお願いしたいと思います。どうぞ両委員よろしく願います。 |
| 3-(2). H23実績報告
張替会長 | それでは議事に入らせていただきます。議事(2)平成23年度献血推進実績について、事務局から報告願います。 |
| ・事務局(血液C)
高嶋推進課長 | 『宮城県の献血』より、以下について報告した。
・平成23年度献血状況について(P.1～8)
・平成23年度不採血状況について(P.15)
・平成23年度供給状況について(P.16～19) |
| ・事務局(薬務課)
松本班長 | 『宮城県の献血』より、以下について報告した。
・献血の推進体制について(P.20)
・血液製剤の使用適正化対策について(P.21,22)
・イベント(P.22,23)
・平成23年度表彰(P.24,25)
・その他献血関連事業(P.25,26)
・平成23年度広報資料の作成配布について(P.27,28)
・平成23年度献血推進行事開催状況について(P.29～31) |
| 張替会長 | ありがとうございます。只今の23年度の実績につきまして、委員の先生方からご質問ご意見がありましたら。 |

張替会長 400mL の実績が、少し達成率が低かったのは、バスに依存しているからですか。震災でバスが動かなかったから。

伊藤委員 おっしゃるとおりです。

張替会長 照射、未照射の製剤が分かれているのは。

伊藤委員 現在は、輸血する製剤にあらかじめ放射線を照射しておりますが、宮城県内で血液用放射線照射装置を有する病院からは、「院内で照射しますので、未照射の製剤を供給してください。」と未照射製剤の注文があります。

張替会長 照射する装置を持っている病院があるということですね。
では、採血できなかった理由でヘモグロビンが少ないとありますが、その他の理由も多いようですが、問診で引かかるのですか。

高嶋推進課長 はい。海外渡航歴が厳しくなったものですから。その他には服用歴等があります。

3-(3).H24状況報告
張替会長 よろしいでしょうか。もしご質問がなければ、平成24年度献血推進計画及び献血推進状況について、薬務課からよろしく申し上げます。

・事務局（薬務課）
松本班長 配布資料1-(1),(2)より、以下について報告した。
・平成24年度宮城県献血推進計画【資料1-(1)】
・平成24年度献血推進状況<事業実績>【資料1-(2)】

張替会長 次に、血液センターからお願いします。

・事務局（血液C）
高嶋推進課長 配布資料2より、以下について報告した。
・平成24年度献血実績について【資料2】

張替会長 それでは、説明に対してご意見等はございますか。
複数回献血クラブとは、どういったクラブなんですか。

高嶋推進課長 年間複数回ご協力いただける方を対象に募集しています。パソコンで管理しておりまして、(献血者が)携帯電話等のメールで登録します。地域毎の献血の呼びかけや、イベント等の情報を流すようなことをやっております。

張替会長 献血回数のポイント制とか、そういうことではないのですか。

高嶋推進課長 ポイント制とはちょっと違うのですが。

張替会長 ポイント制はまだやっているのですか。この段階では何、というような。

高嶋推進課長 左様でございます。ポイント取得に応じて記念品を差し上げております。

鈴木委員

23年度は災害の影響があったようですが、24年度の採血の状況は、先程の説明だと、すこし少ないというか、心配なところがありつつも、それほど深刻な状況でもないのかな、と受け止めたのですが、話によると24年度は相当深刻だと聞いたのですが、その辺りの深刻度の評価はどのようなものでしょうか。

高嶋推進課長

まず、全国の献血率ですが、この献血率は、献血は16歳からですが、15歳からの統計は出ておりませんので、“献血者数/15歳～65歳人口”で出しています。宮城県の献血率は5.5%で全国では47都道府県中43番目です。全国平均が6.5%でございまして、平均よりもかなり下回っている状況です。

昨年度は震災の影響により、献血者数も減ったということで、赤血球製剤を東北以外のブロックから23,000単位受け入れており、全員が400mL献血者だとすると、11,800人分を他ブロックから宮城県に入れて供給した、という状況です。

今年に入り、採血と供給では同じ位の数値を示しておりますが、採血と供給では108%ルールというものがあまして、供給に対して108%の採血をしないと、実際には回りません。今年度34週目までの実績で、108%を達成したのは5週のみでした。つまり、他のセンターから融通してもらわないと回らない状況が続いております。

鈴木委員

県外からの応援をもらってようやく安定供給している。自給できていないと。

それで、血液センターの方の献血で、広報等を活発にやっているとは思いますが、献血については、市町村、県の行政のバックアップが非常に大きいと思います。献血に協力していただける地域の事業所の掘り起こしや献血バスをどのように運行したらよいか等、地域の実情をしっかりと情報提供いただいて、場合によっては行く先を上手く探していただくとか、協力していただくことが大事だと思っております。特に市町村は県からの声かけが非常に大事だと思いますので、血液センターの方も一生懸命努力はしておりますけれども、いずれ、県や市町村の行政のバックアップをよろしくお願いいたします。あとは、医療機関の方は、今までも広報していただいておりますが、機会をとらえて献血の情報の発信をお願いいたします。それから、河北さんでは我々の行っているイベントを紙面に取り上げていただいて。地元紙に取り上げていただくのは県民の皆様には効果が大きいので、一番購読者数の多い河北さんに頼るところが大きいです。

張替会長

はい。

献血バスは毎年回る所は決まっているのですか。年によって変わるのでですか。

高嶋推進課長

市町村に対して毎年目標がございまして、バス1台当たり45人を目標で動いておりますが、毎年担当者が変わりますので、大体同じところに(配車計画を)埋めてくるのですが、殆どの市町村は達成していません。そ

ここで血液センターでは、私共は45人を目標にやっているものですから、前回例えば10人位しか来ない場合は、もう1箇所（事業所を）増やして欲しいとお話をするのですが、「もう決めた」とか「もう先方に話した」ということで、受け入れられない場合が非常に多いので、45人の目標を下回った状況で動いておりますので、その下回った分を東北ブロック以外からもらわなければならない、ということです。

張替会長 大学とかそういったところにも行かれていますか。

高嶋推進課長 はい、大学は全て行ってます。

伊藤委員 大学も45人ですか。

高嶋推進課長 いいえ、大学は女性が多く不採血率が高いので。大学に行った場合は33%位が不採血になります。しかし、増やす必要が有るものですから、大学生に対しては、ケーキやカップ麺を渡して一生懸命回っております。

張替会長 県で（献血率が）43番目ということでしたけれど、高いところと低いところで地域性はあるのですか。人口との関連など。

伊藤委員 いや、ないです。例えば東北地方で一番高いのは秋田県で上から3番目ですが、人口との関連はないです。

張替会長 何でしょうね、意識でしょうか。

伊藤委員 ずっと、僕が所長になったときからかなり下だったので、東北地方の中では献血ルームが仙台市内にあるというのがありまして、おまかせ的どころが無いわけでは無い。

張替会長 他に御提案があれば。

鈴木委員 災害の影響で23年度は数値が上がらなかったという現実があるんですけど、多分ですね、沿岸部の被災者の皆さんというのは、生活環境はまだまだ大変な状況が続いていると思うのですが、献血に協力するという意識はむしろ高いかもしれないので、やり方を少し工夫して、場合によっては仮設住宅みたいなところに集団生活されている皆さんにお声がけをすとか、例年のことを繰り返すのではなく、状況に応じたバスの運行の仕方とかも考えられるのかな、と思います。

張替会長 確かに、骨髄バンクドナーもいつ再開しようかと恐る恐る始めたんですけど、実際選定された人はむしろ積極的に「こういうときだから」と同意をさせていただいて、断る方はあまりいない。おっしゃるとおり、意識的には高いところはあるんでしょうね。

はい、よろしいでしょうか。色々大変でしょうけど、工夫されてよろしく願いいたします。

3-(4).H25計画策定 張替会長 それでは続きまして、平成25年度の供給及び採血計画策定にかかる方向性等について、まずは血液センターからお願いします。

・事務局（血液C） 横山供給課長 平成25年度の供給・採血計画については作成段階なものですから、今回については口頭のみ説明とさせていただきます。

まず、25年度の供給計画ですが、策定に当たっては、直近の供給状況に基づいて算出することとしまして、平成24年度6月から過去2年間の伸び率に基づいて、平成25年度の供給を算出しております。平成23年度の供給実績につきましては、各製剤共前年度を上回っている状況でありますけれども、直近の伸び率としましては、赤血球製剤が97.7%と若干減少傾向にありまして、血漿製剤につきましては100.6%と、さほど増減が無く推移しております。血小板製剤につきましては104.8%と、先程実績の方でも説明があったかと思いますが、増加傾向にありますので、平成25年度の供給状況につきましても概ね同様に推移していくのではないかと推測しております。

このようなことから、平成25年度の供給計画につきましては、赤血球製剤は前年度の計画単位から5,000単位減の105,000単位を予定しております。血漿製剤につきましては、前年度と同数の56,000単位を見込んでおります。血小板製剤につきましては、前年度の計画単位数から5,000単位程増加を見込みまして、160,000単位を見込んでおります。各製剤別の供給本数としましては、赤血球製剤が56,624本、血漿製剤が17,491本、血小板製剤が15,607本で、総供給本数は89,722本の供給を見込んでおります。

各製剤とも、現在、高単位製剤の供給を医療機関は求めておりますので、献血については特に400mL献血、成分献血については高単位成分献血の献血者の確保に努めなければいけない、ということで考えております。

なお、25年度の採血計画につきましては、平成25年度の供給計画に基づく必要採血本数と併せまして、今後、国から分画製剤の製造に関わる原料血漿確保量が示されますので、そちらの数値に基づいて算出することとなっておりますので、採血計画については算出後に御報告させていただきます。

続きまして、平成25年度の採血計画策定にかかる方向性について、高嶋から若年層関係の推進について説明させていただきます。

張替会長 今のは資料は無いんですね。

横山供給課長 策定段階なものですから、今回については口頭のみ説明とさせていただきます。

高嶋推進課長 ・若年層献血者等確保対策【資料3】

引き続きまして、今後の方向性についてご説明申し上げます。これからどうするかということをお話させていただければと思います。血液センターでは、10代・20代を中心にこれから献血者を増やさなければならぬという課題がございますので、今年度から来年度にかけて実施する項目を挙げさせていただきました。まず10代におきましては、セミナー

(出前講座)を実施させていただければと思っております。既に今年度は6回実施しております。これは年度始めに血液センターの方からセミナーについて県内の全高等学校に文書を出しているのですが、希望されるところが少ないということで、6回実施しております。ちなみに他の東北6県では殆どゼロでございますので、宮城県では若干良いのかな、ということでございます。

今年度におきましては、文書を出しても声がかからないものですから、セミナー募集のポスターを作りまして呼びかけをしようと思っております。それは、高校生にとどまらず、中学校にも配布しようかと考えております。

その他にマグネットバーの配布ということで普及品として掲載しておりますが、今年度はホワイトボードイレーザを考えております。県内の高等学校に必要個数の希望を取ります。各教室に配布する予定でございます。ホワイトボードイレーザの後ろに献血のロゴを入れまして、授業中に見ていただけるかな、と考えておりまして、希望を取って配布させていただく考えでございます。来年はマグネット板にしようかと考えております。

それから20代の増加におきましては、なかなか難しいものがありまして、不採血が多いのですけれども、大学に関しては全ての学校で献血を実施しております。また、専門学校についてはまだまだ新しい専門学校を開拓する余地があります。それは個別に当たるとしても、献血ルーム等にお越しいただくような広報資材を作らなければならないと思いましたが、今年度におきまして、仙台駅のヨドバシカメラに行く東西通路にW800×h1600の看板を掲げようかと考えております。好評であれば来年度も継続してやろうかと考えてます。また、アオバの献血ルームにおきましても看板を考えておりますが、地下鉄構内での看板を考えております。

その他に、専門学校・大学におきましてはカップ麺の配布を行っておりますが、なかなか献血者数が上がらないこともありまして、現在配布しているものより高価なカップ麺で普及しようかと考えております。先週ですが、デモで今までカップ麺だった大学についてケーキにしたら、109人来まして、ただ不採血が50人だったので、ちょっとがっかりしたんですが、ものでつるのは好ましくないのですが、実際は記念品ということでケーキを差し上げようかと考えております。

冬季から春季にかけての対策は、今年は大きな花火を上げようと考えておりまして、12月1日から25日までのケーキ等、楽しみを持って献血に来ていただくということで増加を狙ってまして、この告知は既に8月から行っております。これは、8月に献血しますと、3～4ヵ月献血出来ませんので、冬季に来ていただければと期待しております。

張替会長

今も献血者はカードですか。携帯とかweb何かで登録できれば。

高嶋推進課長

献血カードの磁気の中にデータが入っており、携帯が通信できない場合とかがありますので、1回献血していただいたら献血カードにデータを蓄積しております。

張替会長

何かありましたら、お受けしたいと思っております。

酒井委員 高校生の採血率が非常に低いという話がありましたが、高校生に人気があるタレントというと、最近ではAKB48とか、ちょっとお金はかかるかもしれませんが、例えばクリアファイルにAKB48の写真を入れて献血した人に記念品として配るとかすれば、献血してみようかな、という気持ちになるのかなと今考えた案ですけれど、もし検討していただければとお話させていただきました。

高嶋推進課長 ありがとうございます。AKB48に関しては、血液事業ではなく、日赤全体でキャラクターとして使用しております。昨年はクリアファイルを作って配布しております。ただ、著作権がありますので、新たに血液事業のポスターをAKB48をバックに、というのはなかなか出来ないという状況がありまして、非常に難しく、お金の関連もございますので、来年度も続くかどうかわかりませんが、一応AKB48は、日赤として1回使っております。

張替会長 よろしいでしょうか。
今日の議題は以上ということになりますけれども、もしその他無いようでしたら、事務局に進行をお返ししますが、よろしいでしょうか。

4. 閉会 張替会長ありがとうございました。皆様には長時間にわたり、熱心に御
門脇総括 討議いただきましてありがとうございました。それではこれもちまして、平成24年度宮城県献血推進協議会を終了とさせていただきます。

審議内容を明確にするため、議事録署名人が記名押印した。

署名人 印

署名人 印